



# 埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ : Youth Involvement & Activities



## 2021-22 年度 会長テーマ「地域と繋がろう・地域に知られよう」

関東東部部長 大澤和子 (所沢) 「私の地域から世界に広げよう 青少年を支えるワイズの輪・和・ワッ！」

東日本区理事 大久保知宏 (宇都宮) 「私たちは次の世代のために何ができるか？」

アジア地域会長 Ohno Ben (大野勉・神戸ポート) “Make a difference beyond the 100th” “100年を越えて変革しよう”

国際会長 キム・サンチェ (韓国) “Y's Men with the World” “世界とともにワイズメン”

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上松寛茂 / 書記 水無瀬隆三 / 会計 小林道明  
直前会長 上松寛茂 / ブリテン 水無瀬隆三・浅羽俊一郎 / 担当主事 太田 聡

### 今月の主な内容

◆会長挨拶 ◆9月例会メモ ◆さいたまの市民活動を訪ねる ◆メンズエッセイズ ◆メンバーからのお便り ◆YMCA 便り・小窓から ◆フォトギャラリー



### 会長挨拶

浅羽俊一郎

今期に入って対面例会を毎月実施していますが、9月には「中秋の名月」例会を持ちました。コロナ禍にあっても対面例会が可能なのは少人数クラブだからかと思うと、複雑な気持ちになります。一方7月からは例会を午後に行っていますが、平日は夜間しか出てこれ

ないメンバーのために夕例会が検討課題です。

さて今期の会長テーマ「地域と繋がろう・地域に知られよう」を実践すべく外に出向いて市民団体や奉仕活動家との関係づくりを試み始めたところです。やり方は様々でしょうが、「奉仕」がキーワードであり、「地域」「子ども」「共生」「活動資金」等は話しやすいテーマです。話していて親しくなりますし、彼らの視点で地域の課題を見る目が養われます。また会話ではタイミングを見て彼らにワイズについて語ります。動画カードが役立ちます。奉仕クラブという面よりも国際団体であること、特に国際交流・IBCの交わり(ZOOMで可能)に興味を持ってくれるようです。

会員増強どうするか。地域との接点が少ないクラブとしては接点を増やし、信頼を醸成するところから丁寧に進めていくしかありません。そこで魅力的な人に出会った時は、その人がワイズに入るかは別として、その出会いは私にとって喜びであり、これもワイズのお陰だと感謝しています。◆

### 今月の聖句

イエスは言われた、「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい」(ヨハネによる福音書5:8)

### 私の心に触れた言葉

水無瀬隆造

#### 「無財の七施」

父(故人)が70才の時、改たまって「仏教講座に来てくれ」と言われました。親孝行にと思い宗教評論家「ひろさちお」氏の講座に行き仏教では財産が無くても七つの施しが出来る事を学びました。それが「無財の七施」です。私は新しく目が開かれた感を受けました。無財とは、費用も、能力も使わなくとも実施出来る事です。○眼施。優しい目つきで対応する。○和顔施。いつも和やかな顔で対応する。○愛語施。いつも優しい言葉を使う事。○身施。自分の体で奉仕する事。○心施。自分以外の者に心を配る。○荘座施。席を譲る。○房舎施。雨風をしのぐ場を与える。不安に生きる現代人にとって大切な教えだと思います。

### 10月「コロナ漸減」例会 案内

日時: 10月25日(月) 午後2時～4時

会場: 「き咲きてらす」(浦和区木崎3-6-6)

開会

ワイズモットー・ソング・今月の聖句

ゲスト紹介・誕生日/祝い事

協議: 今後の活動戦略を話し合う(その1)

YMCA タイム(報告と小窓から)

交流のひと時・閉会

\*閉会后懇親会予定しています。

## ◆ 9月「中秋の名月」例会メモ



9月27日の例会を会長は勝手に「中秋の名月」例会と名付けました。午後2時開会。大澤和子部長公式訪問。ゲストは大澤さんの知合いの宮地輝子さん、ピジターは比奈地康晴メン（東京クラブ）、浅羽恵メネット。開会直前に挨拶は埼玉クラブについて手短かに会長から頼まれた大澤部長はさすが。当クラブの活性化には女性参画が肝要とグサリ。バースデイギフトは高級紅茶。

メインイベントは浦和YMCAの太田聡館長の卓話「私にとってのYMCA」。太田主事は勤続20年目のYMCAへの思いをスライドを見せながら語ってくれた。相模原市出身。今は川越市に奥様とお嬢さん2人と住む。日本社会事業大学で福祉を学び、在学中英国に留学。就職するまでYMCAを知らなかった。埼玉Yに同期が4人。自分にインパクトを与えた3つ出来事があった。アメリカにダイナミック・キャンプを毎年引率して成長していく子ども達を目撃してきたこと。2016年の津久井やまゆり園の事件と、その元職員だったお父様の語られた思い（天声人語で紹介）など衝撃を受けた。3つ目は昨年の球磨川洪水被災者支援するなかでの気づきの体験。太田主事の話に皆感動した。

今月の歌は「故郷の空」伴奏はハーモニカ（小林）とピアノ（浅羽）。懇親会で交流を深めた。比奈地東京Y会長は浦和在任。これからも繋がってほしい。

（後日メモ）YMCA 主事は長い年月の間に様々な出会いとユニークなY体験を重ねてベテランになっていくが、そこに人間としての厚みが出てきて「主事さん」に熟成していくと思っている。そのために必要な「振り返り・気づき」を太田主事は着実に積んでいると思った。これからも様々な難局・難題に遭遇するだろうが、若いスタッフを育成し、Y運動を担ってほしい。（浅羽 記）◆

## ◆ もう一つの例会？

仕事で昼例会には出席できないメンも夜は集まれる、と急遽9月30日午後7時に衣笠、三浦、浅羽の3メンは新都心駅のレストランに集まることに。軽食とジュースで閉店まで



おしゃべりに興じた。（浅羽 記）◆

## ◆ 関東東部 部大会 印象記

10月2日(土)にズームで開催。大会には多くのメンが馳せ参じた。パソコンのスクリーンは浴室のタイルのように仕切られ、その小さなマス目に懐かしメンの尊顔を探す。自分も見える。今や見慣れた映像だ。部や区を超えて100名近い参加があった。



大澤部長の挨拶、小関京子メンの司会でプログラムは順調に進行。メイン・アトラクションは萩原なつ子立大教授の講演。話もスライドも弾むように進んでいく。人生100年時代をどう切り抜けるかについて男女市民、特に女性の意見が行動にすぐ反映されるかが鍵だという話だった。「ウェルビーイングなまちづくり」という考え方を紹介してくれたが、これはオールジャパン YMCA の新しい概念と通底しているようで印象に残った。講演後グループでの話し合いも盛り上がった。萩原先生のような方を手放してはだめ。ワイズのアドバイザーになってもらいたい。（浅羽）

ユース事業については事業主査の衣笠メンから以下の説明があった。

10月はYIA 強調月間。新事業 iGo を紹介しました。

**iGo = Internships for Global Outreach**

（アイゴー：世界に手を伸ばすためのインターン制度）青年の成長を目的として、YMCA やワイズメンズクラブ会員で事業を行なっている者が、ユースに国際的なインターン（職業体験）の場を提供するプログラム。申請時に18歳から29歳の者が対象。2020-21年度に廃止された YEEP の後継プログラムです。（衣笠）

（上松、小林、水無瀬、衣笠、浅羽が出席。）◆

## ◆ 今時のユース気質（2）

### 中学生が「命の大切さ」を訴えた

衣笠輝夫

8月に「少年の主張埼玉県大会」に選考委員として出席しました。埼玉県教育委員会等が主催し、埼玉YMCAが協賛している大会です。2万件から選考された小中高校生15人の発表を聴きました。どれも素晴らしいものでした。



とりわけ「命の大切さ」と題して発表した中学3年生の内容は、生きることへの励ましとして多くの出席者の心を揺さぶるものでした。SNS等で誹謗中傷にあい自殺する若者が多くなっているなかで、母をガンで亡くし、たった一人になった発表者が、生きてく

## ～メソズ・ショート?エッセイズ～

### 「学Yを通じ良き隣人とはを学んだ思い出」

水無瀬隆造

私は立教大学在学中（S36年～S40年）＜1961～1965＞学生YMCA活動に参加していました。

当時高度成長期の中、都市は著しい発展が有り、東京オリンピックも開催され、開催に学生奉仕として何らかの関わりを持ちました。1963（S38）



年に同期のT君（青森県出身）から、青森県には「僻地」と言う経済的に取り残された地で、不便で貧しい状況の中で生活をして人々が居る。その中で子供達はさらに取り残された状況にあるとの話が有りました。

当初東京でも恵まれない子供達は、沢山居る。青森まで出かけ無くともと思いましたが。それでも子供達に夢を与える活動をしようと思われ、何はともあれ一度現地を訪問する気持ちに成りました。

T君の紹介により、青森県の五等僻地「牛滝（読み？）村の小学校」と連絡を取り訪問の主旨を了解してもらい、学校を宿舎とする事が出来ました。部員員12名が集まり訪問したのがきっかけです。船便は「牛滝村」の沖で停泊し、村の漁船で迎えに来てもらい訪問出来る状況でした。陸路は全く有りませんでした。私たちは明治14年に建てられた校舎で宿泊しました。村は漁村でしたが漁港が無く、イカ、コウナゴ、昆布取りが中心で、生産高が低く貧しく有りました。

しかし子供達は外部からの訪問客を大歓迎してくれ直ぐに懐いてくれました。私たち学Yとして校庭で朝礼拝を持ち、食事の前にお祈りを捧げました。その姿にご父兄は、変な学生が来たかと冷やかな目で見られていたと思います。でも子供達が早朝より学校を訪問してくれ、人見知りも無く、ゲーム、学習のプログラムを楽しく、一週間をアット言う間に過ごし、私たちが帰る折は、涙、涙の別れとなり、私たちとしては今後この活動をどうするかが問題と成りました。

結局活動はその後も後輩達が引き継いで行き、気がつけば40年間も続けられました。その間、村に港が出来、近海漁業も盛んになり、経済的に豊かに成りました。交通の便は陸路が開通し車で1時間で、本村「佐井村」を通って牛滝村に来る事が出来る様に成りました。

そして毎年の訪問により、PTA、ご婦人達、青年団の人々と立教Yとの交流も深まり、村のお盆行事は立教大学Yの訪問に合わせて持たれ、村外に働きに出ている人々も帰られる交流と成りました。又後輩の記録によると、教え子の結婚式、更にその子供達の結婚式に招かれた人、家の新築祝いに招かれた人、まるで親類付き合いの様にしていた人達が多数いました。私達も村の発展を確認するため、最初の訪問から30年目に訪問し「記念会」を開催し、再会を果たしました。当時の子供達が立派な親となり、今はその子供達と交

も生きることができない人がいるなかで、命の大切さ、生きることの大切さを訴えた内容に、強いメッセージを受けました。いまだSNS等での誹謗中傷の中におり苦悩する若い方々へ、イエス様の「起き上がりなさい 床を担いで歩きなさい」の魂を揺さぶり癒される御言葉を届けたいと発表を聴きながら思わされました。❖

### ◆ さいたま市の市民活動を知ろう（3）

#### 「てらこや新都心」

浅羽俊一郎

私が「てらこや新都心」（以下「てらこや」）を最初に訪れたのは今年の7月。元気アップネットワーク代表の井上誠氏（ブリテン7-8月号参照）に新都心駅から徒歩10分、大宮警察署の



向かいの大きな日本家屋に案内してもらった。大場明美代表理事と長谷川俊博理事が応対してくれた。そもそもは大場氏のご両親の住

まれた家を地域の子どもとお母さん達に開放したいと願ったのが始まりだった。最初数年間は講演会などの客寄せイベントを企画したが、その後方針を変えて平常活動をホームページと通信で地道に伝えることにした。たたみ部屋は暖かさを感じさせるし、放課後の子ども達が汚した分居心地がいい。私たちがいる間も事務室に子ども達が入り出すかと思えば、庭で走り回る。



「てらこや」はいくつかきちんとした方針がある。対象は子どもとお母さん達。疲れた若いお母さん達はここで本音を聞いてもらえる。他方高齢世代はグループ化しづらいので対象外。また行政から

の資金援助に頼らずに活動できるように空いている部屋は他団体に事務室として賃貸し、学習教室からは授業料収入が入ってくる。職員はこのお二人だけであとは常連の中からボランティアが育っている。（ボランティアを公募すると方針に合わない人も断れないから要注意と。）

コロナ禍にどう対応しているか聞くと、こういう時だからこそ居場所を必要としている人がいるから何とか提供し続けようという結論に達したという返事が返ってきた。面目躍如。余談だがお二人は私が開所を進めてきた「き咲きてらす」を訪ねた際、いくつも貴重な助言を下さった。❖



流するという親子二世代の交流がいつの間にか出来ていました。(以下次号へ続く) ❖

## 「恩師関田寛雄先生とYMCA」連載その②

上松寛茂



我が恩師関田寛雄青山学院大学名誉教授は、この8月で93歳。実践神学が専攻の神学者であり、永い間大学で教鞭をとりながら川崎市で2つの教会を創立、開拓伝道。多摩川河川敷の粗末な教会堂

で牧師として働き、付近の河川敷周辺に住む在日韓国・北朝鮮の人々の民族差別という人権問題に寄り添い、日本の、世界の平和運動の活動にかかわるなど八面六臂の活躍ぶりにはただただ驚くばかり。家庭では政枝夫人が無認可保育所を立ち上げ、民族差別で入園を拒否された子を預かるなど陰で夫を支えつつ2男3女の5人を育てた。孫4人もおられる。使命感に生きる関田先生を神様は用いて長寿を許していると思えない。

関田先生の伝道者への原点はYMCAにあったと不肖の弟子である筆者は確信している。

先生は1928年8月18日福岡県小倉市(現北九州市)で牧師の4男として生まれる。7歳で母親を亡くし、継母にもなつかず、父親は先生が小学生の時に栄養失調で病死。17歳で終戦。父親の教会の友人が横浜YMCAで人を求めているという紹介で横浜YMCAでの働きが始まった。1948年4月のことだった、と横浜YMCAのYMCA Newsの2019年1月号で当時の田口努横浜YMCA総主事との新春特別対談で語っている。

横浜YMCAに入職直後に少年部(ボーイズ・青少年活動)が創設され、当時体育主事だった海老澤義道さんと精力的に働きだす。故海老澤さんがかつて埼玉YMCA総主事で現在日本基督教団調布教会伝道師の栗原道子さんの父親であり、栗原さんの母親が産気づいた時、「関田先生が病院に付き添い、私が生まれた」と栗原元総主事からその経緯を幾度も聴かされた。関田先生はそのまま横浜YMCAで働くつもりが、先生が担当していた少年部の生徒が父親を殺す事件に遭遇、当時新聞でも大きく報道され、この事件をきっかけに牧師の召命を受け、横浜YMCAを退職して青山学院大学神学科に入学。米国留学を経て母校の助教授に就任。直後に筆者は先生のキリスト教概論の授業で出会った。以来60年近いお付き合いになる。大学紛争で神学科は廃止、冷や飯の冷遇時代もあった。その“傷”と河川敷での牧会活動が弱者の立場に立つ愛の力強いバネにもなっていると勝手に想像している。

YMCAはキリスト教精神に基づく愛の奉仕による青少年(社会・野外キャンプ)教育、国際交流(平和・親善・人権)、スポーツ振興、地域活動などを基本理念に掲げ、活動してきた。関田先生はこのYMCAの精神を実践し、体現化した人である。THE YMCAの2014年1,2月号で「戦争を知らない若者よ、戦争に

巻き込まれるな」と警告。2016年10月9日に開催された静岡県御殿場市の東山荘の献堂式メッセージでは、YMCAの歴史において担ってきた課題は「共に生きる」であり、基本原則としてきたと紹介。洞爺丸沈没事故で犠牲となったYMCAゆかりのディーン・リーパーをはじめ、マーティン・ルーサー・キング牧師、マザーテレサを例に挙げ、弱者に寄り添う姿勢の実践を力説した。YMCAが育てた関田先生という素晴らしい人との我が人生の出会いには感謝以外にない。(写真は東山荘献堂式で関田先生と筆者。筆者提供) ❖



## 私のモットー

太田 聡



9月例会の卓話では、自分の経験してきたこと、想いをまとめる貴重な機会をいただき、大変感謝している。社会的な重い事件を取り上げたので、今回は少し気軽な感じで私の想いを書きたいと思う。

皆さんのモットーは？今度の例会では是非お聞きかせいただきたいが、私は、「楽しく学び、真剣に遊ぶ」である。

高校時代に所属していたバスケット部は、試合に負けたら坊主、年末年始以外は練習(修学旅行でも朝練あり)、怒鳴られ、手や足が出るのは当たり前で非常に厳しい指導があった。チームの標語は、「苦しみの中にこそ真の喜びがある。走れ走れ信じて走れ」。今でも苦しい練習の悪夢を見ることが1年に1回くらいある。最近、友人が顧問とバッタリ会い話をすると、「あの時の指導は、今やったら一発アウトだからね」と随分と丸くなっていたらしい。

2002年、私がYMCAに入職した年の職員研修は、御殿場東山荘で行われ、日中の座学と夜のキャンプファイヤーなどリラクゼーション中の学びの時間で、YMCAという団体への憧れが益々強くなった思い出が強く残っている。極度の緊張感の中での学びよりも、安心感の中での学びの方が効果的であろう。だからYの研修は、アイスブレイクを入れるなど、各自の心とその場の雰囲気気を配っていると思う。

しかし、時に真剣勝負も必要だと思う。子どものレベルに合わせて力を抜いて遊んでいると、何だか間の抜けたつまらないものになってしまう。だから、私は「真剣に遊ぶ」。特にここぞという時は、負けたくない気持ちが前に出てしまう。腕相撲、卓球、カードゲームなど。負けると、「もう1回」と頼み込むことも。「リーダー、大人げないよー、子どもみたい」と子どもに言われると嬉しくなる。なんて楽しい仕事なんだろう。(太田聡) ❖

## YMCA スペース

### ◆ YMCA 便り

- ・ 11月 1日 早天祈祷会 (奨励: 浅羽会長)
- ・ 11月 3-23日 第22回埼玉YMCAチャリティーラン
- ・ 11月 20日-21日 みんな集まれ 2021 キャンプ
- ・ 12月 11日 クリスマス礼拝・祝会 (予定) ❖



### メンバーたちの近況

#### ・ 水無瀬メン

私の一日は朝は「ラジオ体操」に始まり、スケジュールに従って「医者」「病院通院」が主な日課になり、たまに専門店に買い物行くぐらいです。友人知人からの電話もお互いの元気を確認し「コロナが収束したら会いましょう」で終わります。季節による行事のお誘いも自粛しています。一方マンション内の植物が朝の「体操の帰り道」四季の移ろいを教えてくれています。近時は「金木犀」の花が秋の深まり伝えてくれます。外に出る機会が少なくなりましたが、これらマンション内の植物に癒しを受ける昨今であります。

### 最近気になった NEWS

- ✓ 9月30日緊急事態宣言、蔓延防止措置ともに解除。その後も COVID19 感染者数は減少。
- ✓ 10月4日岸田内閣発足。
- ✓ 真鍋淑郎博士 (プリンストン大学・物理学) が気候変動の予測法開発でノーベル物理学賞。基礎研究しにくい日本からの頭脳流出。
- ✓ 10月20日衆院選入。217選挙区で野党共闘。

9月例会報告 会員在籍数 7人  
例会出席数 9人  
ゲスト・ビジター 4人  
会員出席率 71%  
ニコニコ 円

### 今後の主な行事日程

- 10月24日 ワイズナイトフォーラム (ZOOM)
- 11月20日 第2回関東東部評議会

## Men's FOTO Gallery



9月18日~20日2泊3日神戸YMCA「YYY余島シニアキャンプ」に参加してきました。アジア太平洋地域会長の野野勉さんが実行委員長。瀬戸内海小豆島の一角にある余島に前々から行きたいとの念願がかないました。素晴らしかったです。キャンプソングも収集でき、西日本区神戸クラブ、宝塚クラブ等の方々と親しく交流ができよい記念になりました。(衣笠)



編集後記 10月号、エッセーも揃い完成しました。ホッとしました。感謝します。市民田んぼの脱穀もすみました。自分でつつい仕事を増やすのはワイズ体質でしょうか。高校の仲間が毎日明日は何しようか楽しく計画していると聞いてちょっと羨ましいです。(笑) (SA)